



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

眼科

認知症の患者さんは白内障手術で表情が明るくなります

当院眼科では最近認知症の患者さんの白内障手術が増加しています。手術は全身麻酔で行うことが多いのですが、術後視力が改善すると表情が明るくなり、患者さんのみならず介助者のQuality of Lifeも向上します。



典型的な具体例を紹介します。

患者さんは施設入所中の93歳女性。3週間前から見えていないようだとのことで近くの眼科を受診して両眼の白内障を指摘され、当科を紹介受診しました。視力は両眼とも手動弁(患者さんの前で手を動かして、動きがわかる程度の視力)で、褐色に混濁し進行した白内障を認めました(写真1、2)。

写真1:右眼

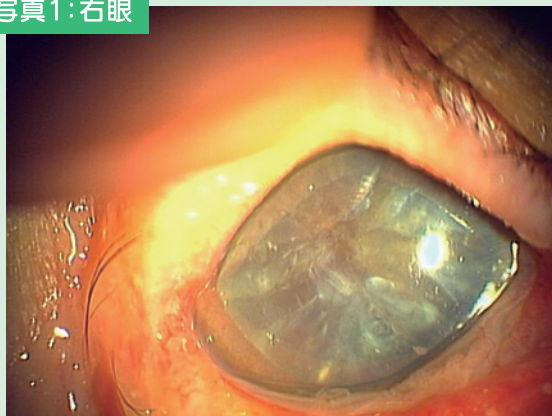
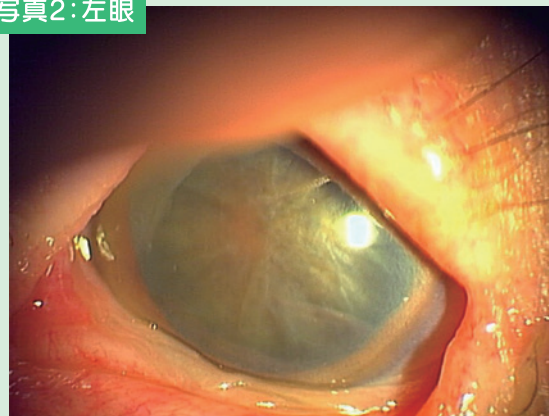


写真2:左眼



両眼とも褐色に混濁した白内障を認めます。

全身検査を行い、全身麻酔下で両眼の白内障手術を行いました。術後の視力は右0.3、左0.4に改善しました。ご家族からは「来るときは歩けなかったのに今は歩けるんですね。手術してよかったです。」との声が聞かれました。

この患者さんのように認知症の患者さんは自分から症状を訴えることが少ないためか、眼科を受診したときには白内障がかなり進行していることもまれではありません。視力低下の原因は白内障のほかにも緑内障や加齢黄斑変性など様々ありますが、白内障は手術で改善する可能性が高く、見えにくそうな様子の患者さんは眼科受診をおすすめします。

(眼科 部長 池辺 徹)

歯科口腔外科 歯の外傷への対応

歯の外傷は乳幼児や学童に多発する傾向があり、特に永久歯（大人の歯）の外傷の場合、迅速かつ適切な対応によって、歯を正常な状態に維持することができます。今回は永久歯の外傷（歯の脱臼）の初期対応についてご紹介いたします。



「歯の脱臼」とは転倒や、スポーツでの接触等の外力で歯が抜けてしまうことを言います。受傷時に歯が抜けていることに気が付いた場合は、歯が落ちていないか周囲を確認してください。

発見した歯は、乾燥を防ぐよう牛乳や、もしくは学校では歯の保存液が置いてある場合がありますので、その中に入れて速やかに歯科へ受診してください。飲み込む心配がなければ口の中に入れてそのままの状態でもよいです。消毒液を使う必要はありません。土などで汚染されていた場合は水で洗い流してもよいのですが、短時間で、また歯を擦らないよう注意してください。歯の根の部分にある歯根膜を傷つけてしまいます。

歯科では歯を元の位置に戻し、ぐらぐらしないように隣の歯と固定（暫間固定）する処置を行います。固定の期間は2～3週間ほどです。

脱臼した歯は抜けてから時間が経過してしまうと、元に戻すことが難しくなります。早めに歯科へ受診するようにしてください。



歯が抜けている状態



元の位置に戻し、固定



固定を除去、元の状態に
（神経の処置後）

（歯科口腔外科 田嶋 理江）